



### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

#### 1. 実践事例について

本校では「ふるさと学習」を環境教育の柱と捉え、「山門水源の森」をフィールドに、1年生は自然観察、2年生はササユリの播種とウッドジョブ事業、3年生は林床整備作業を行った。学校だけにとどまるのではなく、地域と積極的に連携を図りながら、環境教育を進めている。そして、地域の豊かな自然や限りある資源を守ろうとする実践的態度・心情を育てている。そして、本年はその「ふるさと学習」の中で、地域にある歴史的建造物である塩津港遺跡について学んだり、地域の伝統文化を現在も続けておられる方をゲストティーチャーとして招いたりということも行った。また、本校ではユネスコが呼びかけている「世界寺子屋」運動に賛同し、書き損じハガキ回収活動を行っている。西浅井町の全家庭を自治会ごとに組織された「自治会生徒会」が分担してまわり、書き損じハガキの回収を行った。その他にも、奥びわこ健康マラソンや町での縁日の手伝いなど、地域で行われたイベントのボランティアに全校生徒が積極的に参加している。

#### 2. 「山門水源の森」から学ぶ。

##### (1) 1学年の取り組み

- ① 日時 6月10日(金) 9:30~12:00
- ② 参加者 1年生19名 教員4名 講師2名
- ③ 内容 「山門水源の森の植物・動物を知ろう！」
- ④ 成果

地域のボランティア団体「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」(以下、「引き継ぐ会」と連携し、一般入山者が立ち入れない山門湿原にも分け入り、湿原の成り立ち・植生等を知ること、生物多様性に富んだ森の実相を学ぶことができた。また、珍しい植物を見ながら既知の知識とのつながりを上手く話してくださり、理科の学習内容についての理解が深まっていた。

##### ・事前学習

「山門水源の森」に入る前に、「引き継ぐ会」の方から森について・動植物についての講義をお聞きした。山門水源の森は東日本・西日本どちらもの植物があることから、日本の中心であると言われること、そのため森にはいろいろな動植物が生息しており、生物多様性に優れているという内容であった。生徒たちは小学校の頃からよく「山門水源の森」における学習をしており、今回の学習でもその理解がより深まったようである。

##### ・事後学習

今回の取り組みは1年生の宿泊体験の中に組み込んでいるため、事後に各自で聞いた内容を新聞にまとめる取り組みを行った。モリアオガエルの卵やササユリの絵など、実際に見たもの、印象に残った内容をまとめることでより今回の学習を定着させることができた。

##### (2) 2学年の取り組み

- ① 日時 11月7日(月) 9:30~15:00
- ② 参加者 2年生34名 教員5名 講師5名

③ 内 容 「山門水源の森の保全活動を体験しよう！」

④ 成 果

「引き継ぐ会」のサポートで、ササユリの種播作業と林業体験(ウッド・ジョブ事業)を行い、「山門水源の森」の保全活動に取り組んだ。播いた種は約 4,000 粒にのびた。ササユリが花をつけるまでに 7 年かかることや、鹿による食害を防ぐために対策が講じられていること等を知った。また、ウッド・ジョブ事業では、製材所へ行き、木の加工に関して教わった。そして実際に加工された木材が使用されている場を見学させていただくことで、日常生活とのつながりを感じることができた。

・ 道徳での事前学習 ～山門湿原を守った生徒たち～

道徳で「山門湿原を守った生徒たち」(本校自作資料)を通して、保全活動への実践意欲を醸成する学習を進めた。内容は、本校が初めて山門水源の森の保全活動のボランティアに参加したときのエピソードを資料化したものである。この資料を読んだ後、引き継ぐ会の方をゲストティーチャーとしてお招きし、保全活動への思いを伝えてもらった。また、この学習は参観授業として、保護者にも参観いただいた。

(3) 3 学年の取り組み

① 日 時 6 月 2 日 (木) 9 : 3 0 ~ 1 2 : 0 0

② 参加者 3 年生 4 6 名 教員 4 名 講師 4 名

③ 内 容 「山門水源の森をきれいに整備しよう！」

④ 成 果

作業は、林床整備(除伐された枝等の片づけ)、「堰」づくりのための石運び、林道に木材チップを敷く等であった。この活動により、このまま人の手が入った湿原や森は、人が入り続けなければ荒れてしまい、生物多様性を保持できなくなることを学んだ。また、「山門水源の森を守っていくのは、次の世代である自分たち」との自覚・認識を高めることができた。

(4) キラリ生き方学習

① 日 時 1 1 月 5 日 (土) 9 : 0 0 ~ 1 0 : 0 0

② 参加者 全校生徒 (9 9 名) 教員 1 3 名 講師 1 名 保護者

③ 内 容 「ふるさとの伝統文化について学ぶ」

④ 成 果

地域におられる、相撲のまわし職人をゲストティーチャーとしてお招きし、対談形式でお話を聞かせていただいた。非常に有名な力士の化粧まわしなども作っておられるということで、生徒にとっても地域の方で活躍されているということがよくわかったようである。その仕事への姿勢など直接お聞きする中で、キラリと光る生き方について肌で感じ、学べたことが多くあった。

(5) 成果

生徒が実際に地域に出かけ、地域の自然に触れ、地域の方々と一緒に活動することは、生徒の学習意欲を高めるとともに、地域への関心を高めることにつながっている。少しずつではあるが、地域の自然を守ることに誇りを持ち、このような活動を続けていくことが大切であることを意識できるようになってきているよ

うに思う。学校だけで環境教育を行うのではなく、地域と連携を図りながら環境教育を進めることで、生徒が地域に主体的に関わろうとする意欲が高まっていることは、最大の成果といえる。また、保全活動についての西浅井中学校の取り組みを、授業参観の場や地域の発表会で地域内外に発信していくことができた。

(6) 課題

山門水源の森の保全活動では、現地での体験学習が天候に左右されることから、各学年とも天候の安定した時期に学習を設定したり、予備日や事前学習事後の振り返りの時間の設定や内容を工夫したりすることが重要である。

今年度は、ふるさと学習に重点を置いて取り組み、生徒にとっても非常に

3. 書き損じハガキの回収

本校では、ユネスコが呼びかけている「世界寺子屋」運動に賛同し、書き損じハガキ回収活動を続けている。この取組は10年以上続いている。今年は、2月3日～9日の期間に西浅井町の全家庭を自治会生徒会が分担してまわり、書き損じハガキの回収を行った。集まったハガキは、5258枚、未使用切手は70枚である。このハガキは、カンボジアやネパール、アフガニスタンなどに寄付され、識字教育のために大いに役立っている。

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他( )